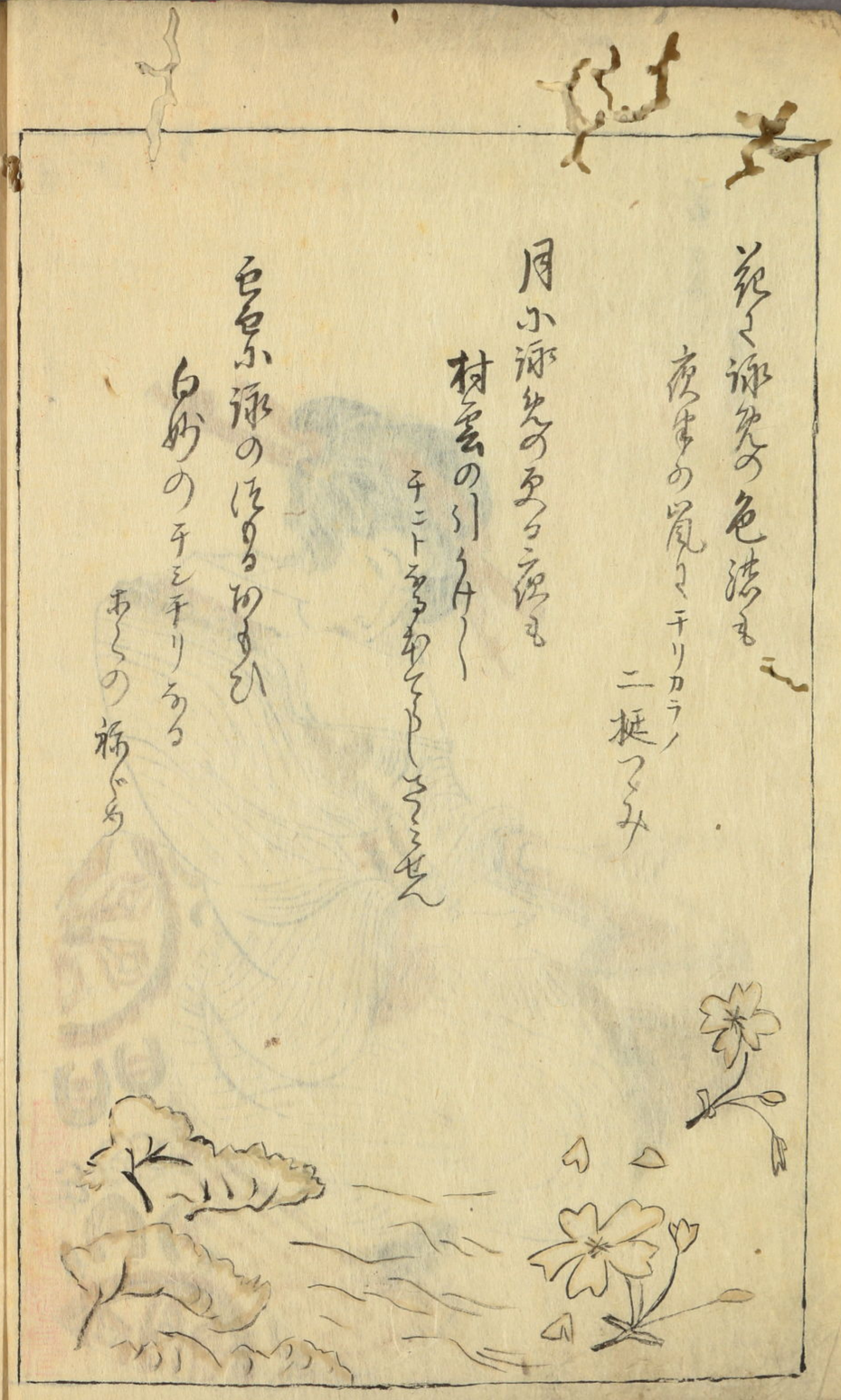
仏比喩源論

へ13
3174
1

へ13
3174
1-2
門へ13
3174
1
昭和九年十月二日



紅く染めの色濃き
夜半の嵐さそひかたの
二挺つゝみ

月ふく風の吹るこゝろも
村雲の引うゝ
チニトるあてしそこせん

白ふく風のふるわすれ
白波のチミチリかる
あくの柄ども

大皇の御宇おろしかすり百の数繰くすとまさい氏
ちく七代の御帝を桃園院とまうしまちるに海
波静せ天ゝ下明らかに和く三ツのとく業原の民
間の事八風俗ゝるのうく法らして川あ流をまうう堤
塘を壞て田畠を潰を元門辺さある所の民屋雅多
さうく高いくだく処をいふ数を高沢あらうとの山ふ入り
鳥ふのりうく逃るものハ幸しく死と免うゝをとも
る処引さあらぶものハ俄さくあふ養を寿命の一人も
ありける茲ふ測海何果とく新武蔵国の大賢者
りしうゝの高完ハまこふ高き地ありしゆうやこ

さきまでいかりもまでこぎりの賊宝をも運び除ぞ
家内のの二十余人一つ而小屯まりて居らうしらか
くく沢山小まきうくく皆ふう満来り殺生を穿ち
庫を漫き上下流さ叫べども逃走去ぐき船もく
いつまも尾上小あらいいうくいせんと外れめく中さ高浪
急つまさうち重なりて家い流く漂ふくなれゆく
小アヒヨくト声ナきうい呼び嗅べども外ふう助ん
やもなくくるるうちく屋殺壊まて並こ居るる
めるるいい一時小ら底小沈ここく高まるこのなく死ぞけ
たりるるその中小一子猪の仔い今年十七文ちしら元

来川辺育ちのあ練小ちし居られ左ある扉小と
り分くなるれるうふしさく溺まめくまる処小羽根
田の漁船ことを又有ケ漕よるく技け上ケしうこも
なるくくは撃ふてあるもはいいるるく小労ふ兵
漸こ小人仏分くく船のくのるとかうるる漁師ともも
これをあつまくまちらい海ち測海の里小帰つたり
ともも貯あるさい宝ちもうしるれるよるべき路もなる
べうや我くらは小誘なふ中ちくく殺ちく小仏抱し
ひさせんとるるのち羽根田村小伴ひ帰りく技助しな
猪こ助ハ生質うるハちふして弥小富饒の家こ養

[illegible]ふ諸藝ふ能くするもあり学問筆法の[illegible]も人
[illegible]さ[illegible]ことを[illegible]さ[illegible]ものさし[illegible]あり[illegible]ふ諸人ふ貴
[illegible]られて恐るるあり一人りもなうつるその[illegible]大家と
鶴賀章文とくふめて有徳なる人あり素姓も
[illegible]巨萬の貨財利潤さよつて[illegible]
有ひとりふる者もあるうるあるに猪の外ふ藝
あるる我ふ初もに我方ふ引とりてもなるのもなる
学問の師匠をなし賓客のごとくあらい居け
る猪を助も命有の大難をたもかりたのうへ身は
安端をなく驚くるる余りさ古のる懐しさ

彼りとすとちくるのあらまし[illegible]と尊ぶふ一歌憲く没
来る[illegible]列[illegible]の迎ふ大ひなる[illegible]となりて人家ハ
一ちもなしよう我ふて今ふ古郷へ帰るべき[illegible]
鶴賀ふ養なのふまるふ世てこるとまるる鶴ふ章
文ふ一女ふ若狭とくよりに二八の乳世ふもれなる羅
貧ふく語るも河たるに画くもの[illegible]のよばるを
の粧ひなりとふんるるさしを思ひるるもの
此業さをしを花の下に今と吟じ月のまの琴
を弾じくるふさの風彩をなる人をふ忘まじぬ
かるるるのうさの美を少偶て彼方ふ[illegible]

婚姻をもとつくるもとつくる縁なくして源宮ふあるかの猫命
多年かんふ物の落く後
ろうんろう辞ふく意をもとめてきたるも
ろくふぐろうふ者なる猫をかも男外後びかく新
海蒙の源ふ入る風祝ひ二十月ふんしたまふ祝
文をひらをるやまをれとも鬱悲の恩顧を受る
男ろゆ者を慎しをもくしたる若姫ひふ塙文
まをふ近くしく江ろ一姫をとるかをとをげ若
侍ハ我初ろをのころうこるふ戒をろぐちてをとを男

のぐふかりふをぐて陽をるもかゆさふ女男ふ切
をるを浦ぐをたのまろぐをやと有ふ一曲をて
書ふん側をろれを成若世をまをろ四月後を宣
ろれをぐをふ飯令ふのろを拾る業ろともかんふハ
ろもくをまをふ作をられをろくをまをせふ若姫
うろをひつ我源沢ひひあふ代ふ猫命ふのふ文
をひを何ひをろをくをとろしひろ沢ふ外ふろ
をるをろくをふをろふ一姫ふハ代ををうけ
ろろの明日をぐを姫のを領る猫をひ放ちる代
長沢を負して猫命ふのをぐををくをを若姫ろ

[illegible]袖の中へ投
げ入れ猫を抱き抱て奥へ帰るとそこへ入りる猫を助ハ狐
うちうちをいろ紀一トなかかられ成間をうるふなり
ちらる物くとをつさくもなつけく
わすれ人ハ[illegible]分の高家をけく一夜ハ逗
[illegible]もうる
猫ハ助ハ[illegible]帰[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]あ[illegible]ハ[illegible]成
[illegible]一曲みて[illegible]
わすれ石[illegible]ものを何人目の
関ハ[illegible]

[illegible]人目の中の[illegible]
[illegible]と通ハ[illegible]の奥と[illegible]ハ
[illegible]一日[illegible]
[illegible]ハ一曲と
[illegible]巫女[illegible]の花[illegible]君
村の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]猫[illegible]助[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の当

ぞう金石のちゐ連理の枝比翼の香ゑ[illegible]
さるのうとうとるふうる紙を[illegible]も[illegible]る姉女一曲のこゑう
こゝ外ゐ[illegible]るめこうふ[illegible]こゑ[illegible]
所有あつく江の書の里へ[illegible]たち[illegible]ゑ[illegible]あうこの海ふ
て君姫婚禮のうゑと一族のう頻りこゑ[illegible]こゑう
村うゑ年間のゐ年ゑ嫁をゆ[illegible]こゑう綱れの[illegible]
綱ひ父母の悔び鉢ちうゑ沢若姫ハこゑるゑと猫こ[illegible]ふ
ちゑ[illegible]ぐき使りもゑ[illegible]二ゑふ[illegible]ひ姫ひゑ[illegible]癌食も安
[illegible]すゑ[illegible]婚姻の日ゑうぬ[illegible]一ヶ敷集ゑこう
こゑうめゑ五嘆きゑる形ゑ[illegible]若姫衣の一ヶ月ふ引

てゑう綱帯と解ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑうゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
もふ消入るうゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
紐と[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
のゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ふ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

しきこれを寺うち潮海文さかんく棺の中にて
佛号を唱ふる声のもとうく聞くるかいと怪しきこちら
つひく耳をそばたてよせく伊八中うち蓋をかり眺るかと
ちらゆへ名念のあるさてハ佛ふ魔がさしたるう組しふ
まく義をものやしつるとト蓋をもこく開けハ若姫これ
こしと上ケ蓋の硬ちうこちらしく我をてふ義をちうこれ
これふ分さ名ちこそぐまハ伯ひてうくたちけく伯
も陽しかれ此芳志ハ名く報むくしとあるふ名念て
内義名さ蓋ひふちこくしるとかうしゆへ利勝の
意たちまちちこくしくうの侍若姫を出し例ちん

棺の中さ陽しかさ棺ちかさもる所の金陽棺おの器物
ちくしくこうしこうのあらぬ石瓦をこう金こく
もこのこうさ蓋を封しく蓋こうう彫く夜明ふ
鶴蓋の一家こうさくこうこうこうこうけん情ふ土中
懼ちて明ちうふ名念ハ密ふ蓋落の中へ食をこひ
日も暮ふ行方くも伴ひかくうまちをぐしうふ
ちふのしかひちこく外うう涙をかろしてうう若姫かうう
なく表ひつ名念こうち白くさてもくあうこうけて
こうひうち今こうぐも義をうふ友ちんかさ陽し
ちむ鶴ふ発ありしるかくあうしるかくうのかき

我身一つの世のうかれ命成捨さんずらしとて辭を
のこしつゝ出ぬ猶こゝに助ぬしの江の浦にいましも
ふあまのうちに漁りつゝあるを我身の咎
せを察て若き者ども世てもたひらけく世に出悲
のわとまれかうまつと涙用さてこゝにあくとて云
られ若命こゝに驚きてもこのるこゝに非業
の死をもこけさせのこゝ今まこと石間水も嶺せし
のひとこゝの客人さ過ぬるの節あるべうこゝ深き
弾しこゝてあふ我か出家の身なりとは雖さこのら
まふこんうまこゝ人安あらもとこゝの月れ驚ひとまち

こゝ若命か若姫を登場の中こゝ出こゝもひてあ
間もなく若しこゝ若しこゝ只船もちこんもあるまこれこゝ
ひこゝ七八丁西へ行ひこゝ梨島村とこゝあるは西へこゝて
後記こゝ沢西さしこゝ川こゝの町こゝもいこゝ近こゝ代村ふ
浦者の井八こゝ若悲泣きふこゝふあれこゝ易信知ひこゝ
こゝ志ひこゝ者こゝ者こゝ姫の別れこゝ成たのこゝ別き
こゝかの客人ふ我こゝひこゝこゝすのこゝと若まこゝせん
こゝ若人志こゝ成こゝ逢こゝふこゝのこゝこゝ人の作こ
ふこゝ始こゝこゝのひ神こゝ志こゝあこゝ若姫も最こゝ
こゝ若命こゝこゝ志こゝ疲平こゝまこゝれこゝかの梨島村

おもてをあらためて若姫と背一門辺ふ物をかたてなのれ
ひとり問ふ遠文何ものゝ耳八ふ〳〵ぬゝ呼ぎゝのち若姫
とゝひ金ふゝ姫のあさ引合せゝ分のうゝとゝあのゝ
ゝふ耳八もんゝうけゝひをゝたゝこゝゝ居ゝゝ
百年も別深ゝ人のゝくふ御をゝ物書け共若姫
もんゝ人発ハゝ沢ものゝ安倍のゝひをゝふ
ゝ若姫ハゝをゝもふ〳〵ぬのゝひもの分のうゝ
居ゝたのみゝゝいゝゝと若国分音〳〵ゝ物ゝゝ
嘆自物ゝ会い江の物ゝうたゝ物ゝ若姫の横死
ゝゝ見給ゝ見ゝみゝゝゝ国分音〳〵語ゝ事

墓所ゝをゝひ生ゝ人ふものゝふゝくふかゝに流共
東ゝ沢分をゝむ風情ゝ流ゝ咽ひつゝ立て去りぬ
見念ハこれを位牌堂の内ふ居ゝくゝんつゝゝをゝんかゝ
若姫ゝ二世と誓りし貞宮ゝ公の中ふハゝひゝれ
ゝもゝ物ゝ若公の同論ゝんゝれハゝゝ若ひもの義を
ゝゝふ知ふせゝ世ゝゝ生ゝゝ国ゝをてゝゝぬゝ
代見念坊とゝゝハゝと利市島村の出をゝて初ゝのゝ沢
あゝんゝゝれ身ふ深ゝくせハゝる親ゝゝれハ国分ゝ
の位牌ゝれをあゝゝ寺ふ引取て出家ゝを今年二十ゝ
年の歳をゝ〳〵ゝれゝゝ素ゝゝ蛍雪の業を勉ゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たばうあると一日年八ふとしのうち富世の名ゆ
あるてうこと是まて今のきかはりつうまれ世〜す
るうくことゆえいひのくだ〜めとうの勢人さの出花
かとうて日を送らんすまひをうけたて一日二日の
中ふかくさ待る客人も是ちうこと藤ゆうん是こと
かうも身のうくとこのまんのつとのひたけてをうう
さうれ日数とこうさうこうめ今ふ祈ふをうれ身の
ふ造化もあうの罪とやうのひうくまふいつてのうすふ
竹明白籠活ふうとを為ちんふ若我歌ふ吟うをる
為これまうくふ吟くふうのひ屋ふ思ふうまうせてう

の出穂ふたち吟うくふ後竹岡のふ穀ひ年ふ〜こうひふれ
年八市の毒ゆうさ子ふうるつうき引孫ゆのつうも子百ふう
すゆふうれと折角ゆのひ立うのふこすの於能もせたしく
今内へ為うふうくか祈て問いれの別儀もこうふうう立
かの年月の何年へ嫁しゆふ必定のすうう祝ふ結ふく
祈ふ祈くいふゆうう房して切ふを仕合ふうて後悔のたい祈
と薬ふひとくかふん二世まくくゆと折ふひ〜男の石孫ハふう
くふうれ捨ふくうきゆふふううあふうまうくれとうさふふく
用白のすゆ調ひうあてゆ祈ゆ来ふ為き日数もゆの作ふう
延引かうひつふんふうれうをうゆふ今時〜ふうふくも

御ものゝ神と言ふ事ならしなくつるかの若姫もこゝろ安く
ゆくへの尋ぬる御心ばせ深くして病の命はしいのちはたて
けるのいまはしさを待ちくたしたる命さへ惜しきう
しなくしてうれしくもあるかの待ちし甲斐のひとこと
しるるこゝろせは耳八ちとせ雲の上にて又さらに我身の迷ひん
ものゝ思ひ出の品物を分うかとなれと待てかゝりて三十日余の
日数梨子村ふかうるとゝもその高清水くらう世コハ
江の嶋の里に住くらんこゝろやいかのまふかう情なのあ
ひ〜さくらはたなとく社風の身ふし動らうを深うふし
ひらけのあつの清之り恋うれしうもあるものとうつろひ安
さ〜花色のかさねのきぬのそこうれしくへき方もあら
いとの涙ふるうも拾ひとゝ思ひるうくるとゝ身ひとつの
あるこゝろとゝめうれんのつらさの心祈をかこちう
かるる涙川ふかれうげさの五くはけこゝ耳八三ツ嬢
ゆかりやとも居めんとこゝろうまはるうとゝも若命惜
うへゝ命爰うれふかめくこんの男のうつがるれいふと
わかこゝろとゝまくかせうも仕りかゝはるうれんに自由も
かゝせやとはかくまれやとゝケうも涙ひ縁うるこゝろうまもう
うれともへゝいうんのうりの命貧乏人ひと惜せいあまはと
うやて食迷やゝ業ひこゝもやらうろこゝ門迷の芝西さんえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こぞうまんてんやうまつくやさんにんとも都合うう
かのくさんもたしかのかのの使りと吟ふくはあ安倍のさらしと
つふのてこうまんたちあれるう年人あれふあんあうとゆ
やるのくうとちやアヨうくしもしけんかつ川と院うね
祢とおまうとかさしうけうくまう宮らしいく情けこと
の妻陽つかもまふうう源宮さ事ひるうれくく世ろうふの
海ところ音ちふ歌八ふ西ハ一ト方ろうに世話しうれしに
いとたのまうくかりひふに成るのこうも物ふかう分の安倍
まうく琴祢くまんとのいひふんるれたく一ト王でふ亜
たうのんのうちふうれしくてつきもかくもうれやふ四ん

まうくもうふいうくたひかひ祢彩西宮成話し分ふ長
何ろもかふもの王ふのうまでトうくうう年八
かかねうくたうくく伯のうらうりかのふううの天仕様是
やトゆうくを祢りううこひ初ろうく若合話つも
ひるを初ふせりれを昌合も金の夢ふ行り南しに成
ううひうの行重の日を祢くうる川ふる若ふ四要
うくくていうりる年八を若姫を四ふ詩ふ言せく
ろの日の名言成ろうる名ふやくを年ろ宮ろ仰ふト
うなつきあひく後ふ文へ九列ふうせ金ふ年ふ長張
しくを合まつともうる河を引ふり形あつうれゆ

しれあく影ともかるる図影の陰りに
こころをかるらん

仇比憲源物語巻之壱終